Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

29B－10

50歳以上の成人男子における麻黄附子細辛湯の排尿に及ぼす影響

名古屋市立大学　泌尿器科[1)]，青木診療所[2)]，
○上田公介[1)]，青木良純[2)]，伊藤恭典[1)]，河合憲康[1)]，山田泰之[1)]，戸澤啓一[1)]，
郡健二郎[1)]

【目的】麻黄附子細辛湯，小青竜湯，麻黄湯などは麻黄を主薬とし，麻黄剤と呼ばれ感冒に繁用されている。これらの漢方エキス製剤には，麻黄に含有されるエフェドリン類の注意事項に準拠して慎重投与の項目に「排尿障害のある患者」と記載されている。高齢者において排尿障害をきたす薬剤は非常に多く，約110種類の薬剤が前立腺肥大症患者に禁忌もしくは慎重投与とされている。ことに排尿障害のある患者が感冒に罹患した場合に一般感冒製剤を内服し，排尿障害が増悪したり，尿閉をきたすことがある。そこで，前立腺過形成が推測される50歳以上の男性ボランティアに対してエフェドリン含有漢方製剤のひとつである麻黄附子細辛湯の排尿に及ぼす影響について検討した。

【対象と方法】対象は事前にインフォームドコンセントの得られた50歳以上の男性6例（年齢50～63才平均56.3才，体重58～72kg平均65.4kg，身長163～174cm平均167.2cm，前立腺重量6.9～22.5g平均14.1g）である。試験薬剤として小太郎漢方製薬の麻黄附子細辛湯カプセル（以下本剤）を用いた。まず試験薬剤投与前に超音波断層法による前立腺の観察を行い，尿流量（最大尿流量率，平均尿流量率，等）および総尿量をuroflowmeterを用いて測定し，つぎに本剤2カプセルを内服させ，その3時間後に再び尿流量測定を行い，本剤の排尿に及ぼす影響について観察した。

【結果と考察】結果は6例全例において尿流量および排尿パターンの増悪はみられなかったが，総尿量増加の傾向がみられた。既に我々は，本剤を用いて健常成人ボランティア（年齢31～47歳）を対象にプラセボを対照薬とした交差試験を実施し，健常成人において排尿パターンが悪化する方向に影響を及ぼさないであろうと報告している[a)]。そして今回の結果から，日常投与される麻黄附子細辛湯は前立腺肥大症の生じる50歳以上の男性にも安全に投与できることが推察された。50歳以上の男性では前立腺肥大が発症することや膀胱機能が低下することなどから排尿障害をきたしやすい。抗コリン剤を初めとして胃腸薬や感冒製剤など排尿障害を増悪する薬剤は多い。この意味からも本剤は前立腺肥大を有する患者において排尿障害や尿閉の可能性が少なく，安全に投与できると考えられた。

a）Ueda, K. et al : Influence of Kampo medicines containing Ephedrines on urodynamic study.Journal of Traditional Medicines **14**,374-375,1997.

NII-Electronic Library Service